

## 地域医療構想に提言したい

札幌市医師会  
札幌新川整形外科

むらかみ としや  
村上 俊也

活用すべき医療資源は医師であり、施設ではない。総人口が頂点を極めた日本で、高齢者人口が頂点に達するのは2045年と言われる。人口減、高齢化に対し政府は地域医療構想や全世代型社会保障等の施策を発表している。前者は団塊世代が75歳を迎える2025年を念頭に、提唱された地産地消の医療体制である。即ち全国を341の「構想区域」とし高度急性期、急性期、回復期、慢性期、4種の機能ごとの必要病床を推計した。推進役となる地域医療構想調整会議は2019年度より10万床削減を目標に医療需要や高齢化に応じた病床の棲み分けを進めており、医療機関はすでに病床機能を自主申告している。後者は入院医療の評価、外来機能の分化、働き方改革に言及し、入院治療は、高度医療や手術実績による施設の振り分けと、それに伴う外来機能の縮小を念頭に、施設間の差別化を想定している。持続可能な医療体制の確保を名目に、地域の医師・看護師等の医療資源を最大限に活用する視点から、公立病院の統廃合に意欲を示しているが、他県では、医業制約が民間へ及び、特定の診療科の標榜を制限する例も聞く。しかし安直な数合わせに固執すれば、本道では、その地理的、気象的な要件を満たせず頓挫するであろう。

そもそも医療資源の活用を論ずるならば、医師の働き方、その最適化を優先すべきである。施設の数や規模あるいは病床数のみに頓着すれば、戎馬を殺して狐狸を求む過ちを犯すだけである。今日の病診連携は患者の一往一来に依存し、病診間に束縛される医師たちの繁閑は考慮されない。巷に流布するのは開業医が楽な分、勤務医が多忙を強いられるという構図である。医師を施設に紐づける診療体系の弊害と考える。

むしろ医師たちの技量をいかに無駄なく共有しうるか工夫すべきである。ゴッドハンドと呼ばれる医師たちはその技術を所望され各地の医療施設に招聘され診療を行っている。麻酔科では特定の病院に所属せず、複数の施設で手術麻酔を披露するフリーランスが増えている。在宅医療に特化すればそもそも診療所は不要となる。医師が、自由に病診間を往来できるようにすれば、辺鄙地域でも中核施設の延命に寄与できるはずである。

即ち開業医は基幹病院に自分の患者を入院させ、自ら出向いて侵襲的な検査や治療をできるようにすれば良い。必要な医療器材や施設を自前でそろえる必要がなくなる分、自身の経営は安定する。一方、病院は入院患者や検査、手術の増加などにより施設稼働率が上がり、収益確保や勤務医の負担軽減に結びつく。医師の自由往来は双方に利益が見込まれ、医師偏在と言われる地域格差の解消に裨益すると信じる。国は2024年度からの第8次医療計画の策定に着手し、病院完結型から地域完結型への脱却を模索するという。そのためにもホスピタルフィー偏重の診療報酬体系を見直し、ドクターフィーの整備を改善し、有機的な病診連携を進めるべきである。

## 勇往邁進

札幌市医師会  
中川胃腸科クリニック

なかがわ まなぶ  
中川 学

大学5年の頃、初めて携帯電話を持ちました。その便利さにとっても感動したのを記憶しています。それ以前は、連絡の主軸はポケットベルで、当時は至る所に公衆電話があり、友人と連絡を取るのにいつも使っていました。今やスマートフォンの時代になりましたが、当時は考えもしませんでした。たった二十数年で、ここまでの変化をもたらした技術には脱帽するばかりです。

昨今、AIの飛躍的な進歩が話題となっています。OpenAI社が開発したChatGPTは世界に衝撃を与え、Google社が緊急事態宣言を社内に発動し、イーロン・マスクが警鐘を鳴らす事態となっています。いつも革命的な技術革新は、楽しい未来と、怖い未来を同時に想像させます。

楽しい未来の一つとして、私は消化器内視鏡診断、治療を専門としていますが、最近のトピックスの一つに内視鏡画像のAI診断があり、今後のさらなる発展が期待されていることが挙げられます。内視鏡業界は、このように、常に機器の進歩と共にあります。新しい機器が発売されるたび、画質や操作性の向上、新しい診断補助機能などの追加があり、日々の診療にとっても有益です。拡大内視鏡診断、内閣総理大臣発明賞を受賞した狭帯域光観察なども、病理診断に肉薄し、いずれはこれもAIと連動して、本当に病理診断と同等の診断能力を持つ日も近いと考えています。

逆に怖い未来の一つとして、マトリックスという映画で描かれているような世界が挙げられます。人間が、AIの作り出した仮想社会を本物と思い込まされて生きているが、実際はAIが作り出した、機械の社会を維持するための発電する家畜としてカプセルの中で生かされている世界で、その支配から抜け出した一部の人間と、AIの世界との戦いを描いたストーリーです。極端な例ですが、それに近いことは起こり得ると思います。決め事の間隙をつくような違法に近い、倫理的に認められない行為を取り締まることの重要性は、いつも付随します。

新しい技術、方法論、価値観には、不具合は付き物です。しかしそれを恐れ、不毛な批判を繰り返し、止まり続けることは、進歩を妨げます。不具合、不都合は、イノベーションの生みの親です。考えながら、間違いを正しながら、少しでも進むことが重要です。そしていい形で次世代につなぐことが、今を生きる者の使命だと考えます。次はどんな新しい技術が驚かせて、楽しませてくれるだろうと期待しながら。